

浜田観光農園としばたて観光農園 観光農園のぶどう収穫体験始まる

7月30日、収穫期を迎えた花瀬観光農園の開園式が行われました。感染防止対策で昨年に続き式典は中止。田代幼稚園と田代こども園の年長児10人によるはさみ入りで開園しました。組合長の濱田隆介さんは、「長梅雨の影響はなく色づきも良い。糖度も日増しに上がっている」と自信を覗かせます。9月末まで開園を予定。



人気のシャインマスカットやピオーネなど15種類のぶどうを栽培する浜田観光農園 ☎ 25-2584。しばたて観光農園 ☎ 25-3077。

田代小6年生が三島竹島学園と初交流 オンラインを活用して互いに紹介

田代小6年の13人と三島竹島学園の5・6年生3人がオンラインを使い互いに地域や島、学校を紹介する合同授業が行われました。今年3月まで田代小に勤務していた鷗狩大地教諭が竹島に転任したことが縁で交流がスタート。タブレットを使い自分たちで作成した資料を映し、地域の魅力や学校での取り組みを伝えました。



島特産の大名筍や魅力を発信するInstagramの更新を毎日欠かしていないと三島竹島学園の3人。モニター内で手を振る鷗狩教諭。

木工体験では本立てを作成。設計書を見ながら正確に作るため互いに協力する3人。左から福谷彩仁くん、鶴崎寿裕くん、福岡汰介くん。



木を上手に使い、森を育てよう 大根占小5年生が木工体験学習

森林が持つ機能や役割への理解を深めてもらいたいと、大隅地域振興局が森林体験学習を企画。大根占小で7月10日に行われ、5年生の児童24人が参加しました。林務水産課の下田係長は、「木は伐って使い植林することで循環する。将来、家を建てる時は木を使ってほしい」と話し、体験を通じて森林の大切さを伝えました。

「みんなで宿題やゲームをする時間も大切にしている」と話す企画した未来づくり専門員の若泉誠さん。(☎よろっで ☎ 0994-27-4548)



ゲストハウスよろっでが夏休み新企画 子ども食堂を期間限定オープン

子どもたちの居場所や世代間交流の拠点づくりとして、ゲストハウスよろっでが7月から子ども食堂をスタート。地元農家からの提供食材やボランティアスタッフで運営され夏休みに全13回を予定しています。この日は錦江町産の夏野菜たっぷりカレーがふるまわれ、賑やかな昼食に参加した子どもたちからは笑顔がこぼれていました。

長さ約20m、重量16トン以上の「覺海」。湾内で養殖するカンパチ・ヒラマサの餌やりや出荷などを行います。船からは餅や菓子などがまかれ新たな船出を祝いました。



川崎水産の漁船「覺海」進水式 大根占漁港では21年ぶり

7月6日、大根占漁港で進水式が行われ、漁師仲間から贈られた色鮮やかな大漁旗を掲げた(有)川崎水産の漁船「覺海」が初出航しました。平成12年以来21年ぶりに行われた進水式を一目見ようと、噂を聞きつけて集まった来場者は250人以上。希望者を乗せて湾内をゆっくりと周遊すると祝旗とも呼ばれる大漁旗がはためき、港中から新造を祝う拍手が送られました。

神川小・宿利原小・池田小が合同学習 児童82人が神川海岸で地引網漁

神川小と宿利原小、池田小の3小学校合同による地引網体験が7月10日に行われ、児童82人が参加しました。昨年は新型コロナの影響で中止されたことから2年ぶりの開催。地元の坂下水産による協力と指導を受けながら保護者も一緒に網を引き上げると、見えてきた魚の姿に、子どもたちからは大きな歓声が上がっていました。



この日はスズキやカマス、イワシ、ワタリガニなど50匹以上が網に入りました。力強く網を引き上げる神川小5年の紀野来斗くん。

「短冊に書いた夢や願いを叶えるために何ごとにも挑戦して」とエールを送った舞原支所長。ロビーに飾られ来庁者の心を癒していました。



田代幼稚園・田代こども園の園児が作成 子どもたちが七夕飾りに込めた願い

田代幼稚園・田代こども園の園児たちが作成した七夕飾りが7月6日、役場田代支所や農協など町内3カ所に贈られました。園児28人が直接持参し、練習してきた七夕の歌も元気に披露。宮園梓沙ちゃんは「早く家族みんなでお出かけできますように」と短冊に願いを込め、子どもながらに新型コロナの収束を願っていました。